

令和8年度 部活動地域展開に関するアンケート結果と考察（保護者）

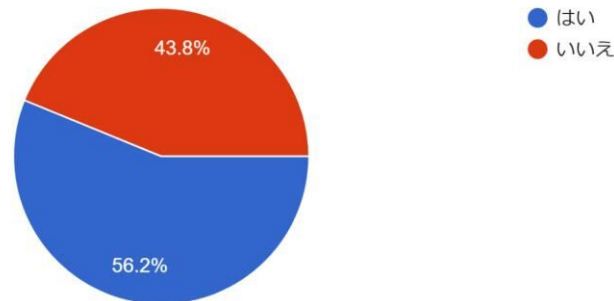
実施日 令和8年7月

【市内小学校6年生・中学校1年生保護者 回答数：486人】

1. 教育広報「ひびきあい」の閲覧率

Q. 令和8年7月に発行された教育広報「ひびきあい」に記載された部活動地域展開に関する記事をご覧になりましたか？

〈回答 486 件〉

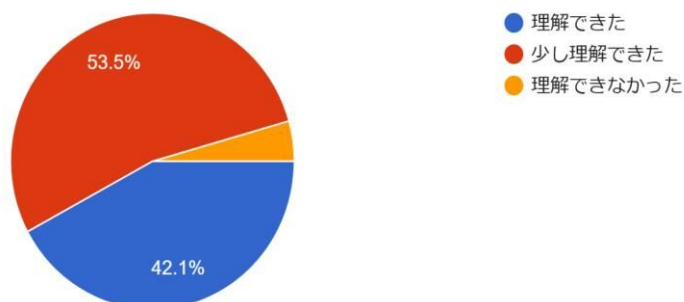


令和8年7月発行の教育広報「ひびきあい」の閲覧状況は『記事を見た 273 人（56.2%）』『記事を見ていない 213 人（43.8%）』と、約半数近くの保護者の方は記事を見ていない状況であり、紙面の情報提供だけでは、周知が十分でないことが伺える。今後も、教育広報「ひびきあい」での周知を継続して行うとともに、部活動地域展開説明動画や保護者会での説明等、幅広く事業を周知し部活動地域展開における認知度を高めていく必要がある。

2. 保護者の部活動地域展開についての理解度

Q. 本市の部活動地域展開について理解できましたか？

〈回答 273 件〉

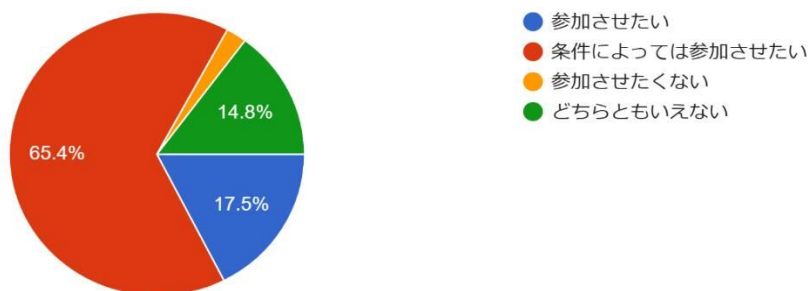


教育広報「ひびきあい」の『記事を見た 273 人』のうち、部活動地域展開について『理解できた 115 人（42.1%）』『少し理解できた 146 人（53.5%）』『理解できなかった 12 人（4.4%）』となっていることから、記事を読んだ方からは、ある程度の理解度を得ることができている。今後、さらに理解を高めていくには、教育広報「ひびきあい」で継続して情報を発信することに加え、部活動地域展開説明動画や保護者会での説明等により、紙面のみならず丁寧に説明を行っていく必要がある。

3. 地域クラブ展開後の参加希望状況

Q. 休日の部活動が地域クラブ活動になった際には、お子様を地域クラブ活動に参加させたいと思いますか？

〈回答 486 件〉

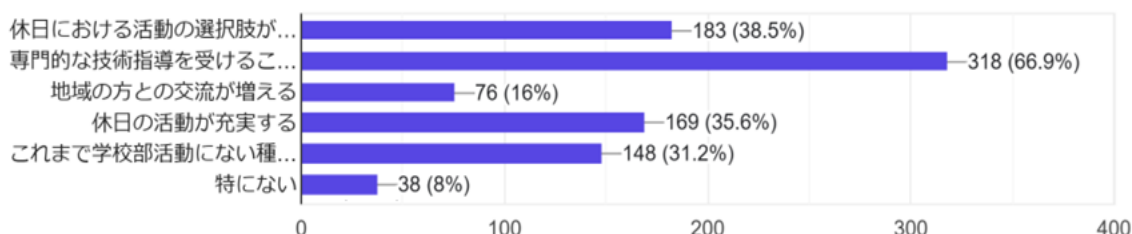


地域クラブ活動に展開後も参加を希望する保護者の方は、『参加させたい 85 人（17.5%）』『条件によっては参加させたい 318 人（65.4%）』と 8 割近い保護者の方が地域クラブ活動に参加させたい意思がある。一方で『どちらともいえない 72 人（14.8%）』と回答する保護者の方も多く、部活動地域展開について具体的な運用方針が定まらない限り、最終的な判断が下せないという保護者の方の慎重な姿勢が伺える。また、『条件によっては参加させたい 318 人（65.4%）』の割合が多いことから、本市としての運用方針を子供や保護者の方の想いに寄り添いながら、協議をすすめていくことが重要である。

4. 保護者として部活動地域展開することで期待すること

Q. 休日の地域クラブ活動において、保護者としてどんなことを期待しますか？（複数回答可）

〈回答 475 件〉

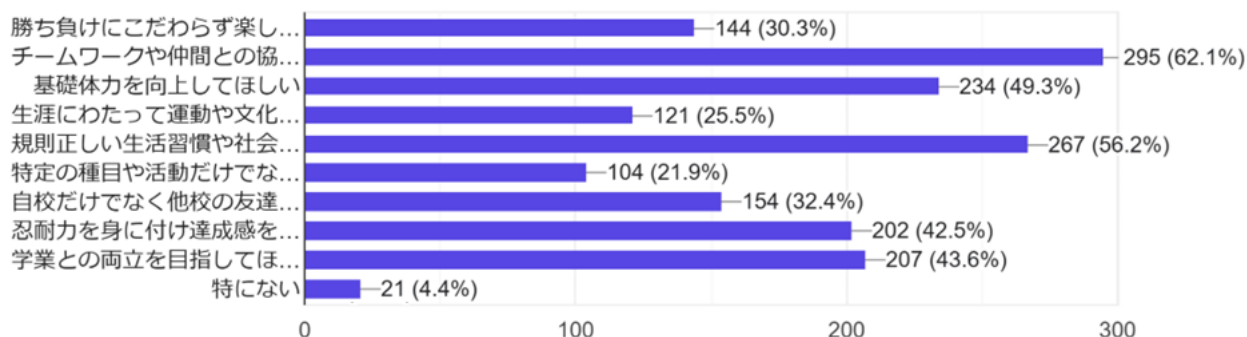


『専門的な技術指導が受けられる 318 人（66.9%）』と多くの保護者の方が期待している状況が伺える。これまでの学校部活動では、顧問の専門性や指導力は部活動によって幅が見られたが、部活動地域展開することによって競技経験のある教職員や指導実績を持つ指導員を配置することができるようになるため、本市の運用方針を決定していくために外せない条件となる。また、『休日ににおける活動の選択肢が増える 183 人（38.5%）』、『休日の活動が充実する 169 人（35.6%）』と、これまでの学校部活動が担ってきた教育的価値を継承し「子供たちの活動の場を提供する」ことに加え、「子供たちの活動の選択肢を増やす」など、部活動地域展開により生まれる新たな価値を示していくことが大切であると考えられる。

5. 保護者として部活動地域展開することで子供に望むこと

Q. 休日の地域クラブ活動において、お子様に対して望むことはありますか？（複数回答可）

〈回答 475 件〉



保護者の方が望むことは、『チームワークや仲間との協調性を身に付けてほしい 295 人（62.1%）』と最も高く、学校部活動によって培われていた「他者との協力」は、地域クラブ活動にも求められている。また、『基礎体力を向上してほしい 234 人（49.3%）』『規則正しい生活習慣や社会性（挨拶や礼儀）を身に付けてほしい 267 人（56.2%）』『忍耐力を身に付け達成感を味わってほしい 202 人（42.5%）』と、これまで学校部活動において、子供たちが身に付けてきた体力や社会性、忍耐力の高まりを期待する回答も上位にあがっている。休日の地域クラブ活動が、学校部活動に代わる新たな活動の場となることは必須であるが、これまでの学校部活動にはなかった『自校だけでなく他校の友達など交友関係を広げてほしい 154 人（32.4%）』『特定の種目や活動だけでなく多様な活動を体験してほしい 104 人（21.9%）』となっており、部活動の地域展開が、単なる学校部活動の受け皿でなく、さらに発展させたものとなるように協議を進めていく。

6. 地域クラブ活動に参加させたい・させたくない理由

○させたい理由

- ・専門的な指導が受けられる
- ・交友関係の広がり
- ・様々な経験を積んでもらいたい
- ・様々な人と関われる
- ・選択肢が増える
- ・部活動を楽しく活動していたから
- ・生活習慣が乱れないように
- ・部活動よりもハイレベルな経験が詰める
- ・本人の意思を尊重
- ・基礎体力の向上
- ・今後も続けてほしい
- ・大会等で優勝してほしい
- ・先輩後輩とのつながり
- ・部活動を楽しく活動していたから
- ・運動経験積んでほしい
- ・学校外の活動をさせたい
- ・平日の活動ではできない部分を充実させてほしい
- ・将来につながる活動をしてほしい

●させたくない理由

- ・費用面が負担
- ・別の習いごとがある
- ・休日はゆっくり休ませたい
- ・家族の時間が減る
- ・保護者負担が増えそう
- ・トラブルが増えそう
- ・平日の顧問と休日の指導者が変わるため
- ・参加人数が多すぎたり少なかったりする

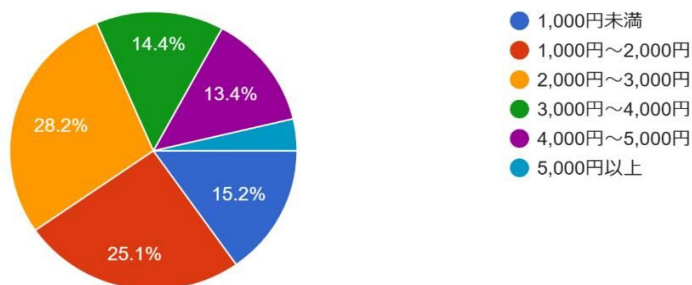
▲どちらでもない理由

- ・詳細がまだわからない
- ・指導者による
- ・活動場所による
- ・費用による
- ・保護者負担は増えるのか

休日の地域クラブ活動に『参加させたい理由』は、「専門的な指導が受けられる」や「交友関係の広がり」など、学校部活動では実現できない内容が多くあがった。また、「基礎体力の向上」や「生活習慣の確立」など学校部活動でも担ってきた内容も多かった。一方、『参加させたくない理由』には、「費用面の負担」や「保護者負担」「トラブルの増加」など、地域クラブ活動になることで生まれる受益者負担や学校外の活動となることへの不安が多くあがっている。こうした保護者の方が持つ不安を解消し、できるだけ受益者負担額を安価で保護者の負担が少ない活動となるよう検討していく必要がある。また、『どちらでもない理由』には、「詳細がまだわからない」といった回答が多く、現時点で発信している情報だけでは、まだまだ不足しているため、今後も詳細が決まり次第、保護者の方に継続して情報を発信していく必要がある。

8. 受益者負担の1カ月当たりの支出妥当額

Q. 休日部活動を地域クラブ活動へ展開後、活動費や指導者の報酬が必要となることが考えられます。すべての学校部活動が地域クラブ活動へと展開された際には、受益者負担（保護者負担）を開始します。国のガイドラインに則り、月に4～5回（週1回）3時間程度の活動となる場合に、1カ月あたりの月会費として支出できる妥当と思われる金額についてお答えください。〈回答 475 件〉



受益者負担の1カ月あたりの保護者の方が考える支出妥当額として最も多かった回答は『2,000円～3,000円 137人（28.2%）』となっている。次に、『1,000円～2,000円 122人（25.1%）』『3,000円～4,000円 70人（14.4%）』となっており、保護者の方は地域クラブ活動展開後、一定の金額が受益者負担となることに理解を示していることがわかる。一方で、『1,000円未満 74人（15.2%）』と回答している保護者の方も一定数いることから、できる限り安価な金額を設定することが、家庭に負担なく子供たちが活動を継続できる条件であるのではないかと考える。受益者負担額は、入会全体数や地域クラブ数によって変動してくることもあり、今後慎重に協議を重ね、受益者負担額を設定していきたい。

9. 地域展開に関する知りたいことや疑問点

<活動内容と場所に関する内容>

- ・種目の有無：具体的にどの種目が地域クラブとして開設されるのか。
- ・スケジュールと場所：活動場所（学校施設か公共施設か）、活動曜日、時間帯、長期休業中の活動等。
- ・移動手段：活動場所への移動手段（自力か送迎が必要か）。

<指導者の質と学校との連携に関する内容>

- ・指導者の資質：指導者の資格、人数、指導方針、さらには犯罪歴の確認等。
- ・学校との指導方針の共有：学校部活動と地域クラブ活動での指導方針の共有等。
- ・指導のレベル：趣味程度の「楽しみ」重視なのか、高い技術習得を目指す「本格的」なものなのか。

<受益者負担・保護者負担に関する内容>

- ・費用の妥当性：月会費だけでなく、道具代や遠征費、保険料などを含めたトータルコストへの不安。
- ・保護者の役割：学校部活動では不要であった「車出し」や「当番・係分担」などの負担等。

<大会参加と進路への影響に関する内容>

- ・中体連などの大会参加：地域クラブ活動展開後は大会への参加はどのようなのか。引率や監督は誰が行うのか等。
- ・内申点、高校受験への影響：地域クラブ活動実績が高校入試の調査書（内申点）にどのように反映されるのか等。

地域クラブ活動に展開することで、学校部活動とは異なる『地域クラブ活動の種目』や『活動場所』、『受益者負担』や『保護者負担』を不安に感じる内容が多くあがった。本市としては、現在検討を重ねている内容も多く、今後の検討資料としていきたい。また、大会参加や進路などに関する内容も多くあがり、学校部活動が担ってきたものが地域クラブ活動になることで、子供たちにとって不利益が生じないよう慎重に運営体制を整えていかなくてはならない。また、今後も保護者の方が抱える不安に寄り添いながら、本市としての運用方針を定めていくとともに、決定事項を積極的に情報を公開していきたい。

9. まとめ

部活動地域展開の理念として、急激な少子化が進む中でも、将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実することが念頭にあげられます。地域クラブ活動を実施するうえで大切にしたいことに、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、地域全体で支えることによる新たな価値を創出することがあげられています。本市においても、こうした理念を鑑み、地域クラブ活動展開後も、これまで学校部活動が担ってきた教育的意義を継承し、競技性や成果のみに偏重するのではなく、子供たちが生涯にわたってスポーツや文化芸術活動を楽しむために必要な資質・能力等を育てることを主な目的としています。今回のアンケート結果を十分に分析し、今後の本市における部活動地域展開に向けた方針について協議してまいります。アンケート結果から、部活動の地域展開に対する保護者の方の意識を整理し、以下の4つのポイントで提示します。

1. 期待と懸念：高い参加意欲と地域クラブ活動の方向性

アンケート全体を通じて、休日の地域クラブ活動に「条件によっては参加させたい」という回答が多数を占めています。これは、部活動地域展開という方針自体には一定の理解や期待がある一方、「具体的な運用方法」が定まらない限り、最終的な判断が下せないという保護者の方の慎重な姿勢を表している結果であると考えます。地域クラブ活動の本市の方向性や具体的な運用方法については、子供や保護者の方の想いに寄り添いながら、今後も協議を進めてまいります。また、決定事項については積極的に情報を広報誌やHPにおいて情報を発信していきます。

2. 指導の専門性向上への期待と「一貫性」への不安

保護者の方が地域クラブ活動に最も期待していることは、「専門的な技術指導を受けることができる」点でした。これまでの学校部活動では顧問が未経験者であることもありましたが、競技経験のある指導者の配置や、学校にはない種目への参加機会に魅力を感じられていることがアンケート結果でみえました。ただし、本市が目指す地域クラブ活動はあくまでも学校部活動の教育的意義を継承し、子供たちのスポーツや文化芸術活動を継続して実施できる場を提供していくことを念頭においているため、いわゆるトッププレイヤーを目指す外部クラブ活動（一流の指導者による指導）とは異なる点を十分に理解いただく必要があると感じます。また、「平日の顧問」と「休日の地域クラブ指導員」で指導方針が食い違うことによる子供の混乱を懸念する声が多くあります。さらには、指導者の質（技術指導だけでなく、ハラスメント対策や身辺調査を含めた安全管理）を厳格に求める意見も目立ちました。子供たちにとっても保護者の方にとっても『安全・安心』である地域クラブ活動が不可欠であると考えます。本市では、民間事業者と連携・協力し、指導者への研修の充実や平日の学校部活動と休日の地域クラブ活動の指導者において連携を密にし、一貫した指導を目指してまいります。

3. 経済的・身体的負担

「受益者負担（月会費）」と「送迎・当番」が、大きな関心事になっていることも調査結果から見えてきました。受益者負担の費用として妥当と思われる金額は「1,000円～3,000円」程度に回答が集中しており、費用設定が参加の有無を左右することになると感じます。これまでの学校部活動のメリットであった「学校で完結する（送迎不要・低コスト）」が失われることへの抵抗感もみられました。しかし、これまでの学校部活動は教職員による献身的な支えによって成り立っており、地域クラブ活動展開後には、指導者への謝金や連絡ツールの導入、スポーツ安全保険への加入などの費用が新たに発生いたします。学校部活動から地域クラブ活動へと展開後も子供たちがスポーツ・文化芸術活動を継続して実施できる環境を整えるため、国や県の補助金、市の負担金を活用し、保護者負担（受益者負担）をできる限り安価な金額に設定し、活動できるようにしていく必要があると考えます。

4. 「学校」からの切り離しによる不安

地域展開により、これまでの「学校単位の部活動」が持つ教育的機能や繋がりがどうなるのかという点に不安が集中しています。中体連などの大会に「地域クラブ活動単位」「学校単位」どちらで出るのか、引率は誰がするのか、また活動実績が内申点や高校入試にどう反映されるのかといった、子供の進路に直結する情報が求められていると感じます。現在、協議中である内容も多くあるため、本市の方針が決定次第、情報を早期に公開していければと考えます。